

第6期 第14回 練馬区循環型社会推進会議（発言要旨）

日時、場所	平成24年6月21日（木） 午前10時～10時40分 本庁舎5階 庁議室
出席者	出席委員 15名 山谷会長、庄司委員、岩崎委員、岩橋委員、金子委員、武川委員、長井委員、松島委員、高橋委員、竹石委員、大野委員、市川委員、武田委員、五十嵐委員、指導主事（深野委員代理） 区側出席 6名 環境部長、環境課長、みどり推進課長、清掃リサイクル課長、練馬清掃事務所長、石神井清掃事務所長

- 1 第13回会議 発言要旨について
- 2 「リサイクル・清掃事業の効率化と負担のあり方について」答申

議 事 内 容

会長

定刻になりましたので、これから第14回練馬区循環型社会推進会議を開催いたします。出席委員数は、定足数を満たしていますので、成立しております。まず、前回会議の発言要旨について、ご承認いただけますか。

（異議なし）

会長

ありがとうございます。次に、答申を区長に提出いたします。その間、進行を事務局にお願いしたいと思います。

（区長入室）

環境部長

それでは、会長から区長へ答申の提出をお願いします。

（会長から区長へ答申を手渡し）

環境部長

ここで会長からご挨拶をいただきたいと思います。

会長

皆さんの熱心なご議論を経まして、ようやくここに答申がまとまりました。ご協力ありがとうございました。中でも、11ページに記載しました、練馬区において家庭ごみの有料化を「導入すべき時期に来ている」という一文は非常に重みを持っております。また、他区にも大きな問題提起をしていると考えます。このような形で、皆様のご意見をいろいろ取り入れていますが、ここのフレーズが一番重要ではないかと考えておりますので、ぜひ区長におかれましても、改めてこの答申をお読みいただき、循環型社会の形成に向けてお力添えをいただくようお願いいたします。

環境部長

では、せっかくの機会ですので、委員の皆様からも、テーマについてのご意見や推進会議の感想など、一言ずつご発言いただきたいと思います。

副会長

副会長を務めております。

ただいま、会長から区長にお渡しした答申は、約2年かけて議論した結果、推進会議としてまとめたものです。私どもは基本的に有料化について実施すべき時期だろうという結論に達したわけですが、家庭ごみの有料化は、区民の皆さんには大きな負担をかけることは間違いありません。

しかし、家庭ごみの有料化は決して、消費税の増税と違い、財源確保のために導入するというのではないということは、我々は承知の上で議論してきたわけです。

ごみを減らす一つの手段として有料化を考えていくというのが、大きくあったと思います。有料化の導入については、負担を強いるという面で大きな課題がありますので、区民の皆さんに理解をしてもらうという方法を併せてしなくてはいけないというのは当然ですが、仮に有料化が実施された場合に、ごみが減らなかったということになったら、一体何のために手数料をかけるようにしたのかという根本を問われます。

有料化をすればごみが減るのかという問題、問題は有料化をする過程、それから、有料化した後のいろいろな施策との一体化がごみの減量に結びつくというのが、これまでの有料化した自治体で実証されていることだと思います。

有料化をするということは、例えば行政のサイド、区長の立場から見れば大変な決断かと思いますが、同時にその後のいろいろな施策の展開が私は重要だと思います。それは区の皆様は承知されていると思いますが、そこのところを是非、十分踏まえて、この施策を円滑に進めていただきたいと思っております。

委員

公募区民の委員の一人として、2年間、この推進会議に参加でき、大変意義深かったと思います。

この答申の内容を見て一番感じるのは、いろいろな意見があって、議論もしましたが、結果的にはうまくまとまっているなというのが最大の印象でした。

委員

公募区民で委員になりました。

ごみの有料化が本当にごみの削減につながるかということに関して言えば、実際まだ練馬区らしい解決には至っていないと考えております。しかし、一方で、委員全員が会議の中でごみ削減への意識が高まったことはまた否定できない事実です。

また、捨てる側の住民として、自分がどの程度のサイズのごみ袋を買ったらよいのかや、1週間にどれくらいのごみを出すのかということを知るよい機会になったと思います。それを感覚ではなく、実感として把握できたことは、この会議を通して大きな成果だったのではないかと考えております。

委員

私も公募区民で委員になりました。

やはり昨年の東日本大震災以降、区民のリサイクルに対する意識が変わってきていると思います。有料化の前に取り組むべきことや、リサイクルについても参加しやすい回収方法も含めて、検討していくことが必要だと思います。

そして、有料化の導入に向けて、区が区民の皆さんにどう理解をしていただくかという、丁寧な説明が重要視されていくと思います。

委員

私も公募区民で委員になりました。

2年間という長いようで短い時間で本日を迎えたことについて、感慨深く思っております。私からは2点お話をさせていただきます。

1点目は、練馬区の行政について、施策ごとに十分な検討をしていき、それに私ども区民が参加することの意義を、このような会議に入ることによって身近に感じることができました。私たちは当事者意識として、何を求めていかなければいけないかということを感じることができ、本日の結論になったことに非常に意義深く感じております。

2点目は、家庭ごみの有料化について検討する度に思うのは、昭和36年に始めた国民皆保険が、昨年、50年という節目を迎えましたが、10割給付の時にどんな状況になったかというのは、本当に思い起こすと恐ろしいです。無料ほど怖いことはありません。要するに歯どめがきかなくなるのです。

ごみ処理手数料の負担は、有料化ありきではなくて、有料化するということがどういう意識につながるのか、また、このことを区民の方に、いろいろなところで話をすることによって、ごみ問題に対する意識が大きく変わってくると思います。

これこそまさに財産であり、その結果に基づいてやることをやると、さらに我々の子孫により良いものになってつなげていけるのではないかと思います。

委員

2年前に公募委員として委員になり、参加させていただきました。

それ以降、個人的に変わったのは、妻がごみを捨てるときに、さらにもう一度中身を見直して、リサイクルできるものはきちんと分けるようになったというのが非常にメリットかなと思います。

最近、消費税10%と家庭ごみの有料化と、どちらが難しいのかなと考えております。多分ごみの有料化のほうが難しいのではないかと思います。無理やりやったら絶対だめだと思いますので、この答申だけではなく、是非、実現ができるような形で、区民の方が納得できるような姿にさせていただけたらと思います。

委員

公募区民で参加しました。私は動機として、地球環境が最近、異常におかしくなっている中で、循環型社会推進会議という、名称にひかれて応募をいたしました。

今回の答申に一区民として参加できたことは、それなりに私としては大変有意義だったと思います。また、視察の機会も含めまして、幅広い議論を通じて勉強させていただいたということは大変ありがたかったと思っています。

区長には、是非、練馬区が行政として、トップランナーとして、このごみの減量政策を進めていただきたいと思っています。

委員

練馬区環境清掃推進連絡会から参加しています。

先ほど、会長から11ページのお話が出ました。確かに有料化の必要性を認めただけでも、全員が無条件で有料化に賛成したわけではありません。かなりの条件をつけられた委員もおります。様々な審議会の中で、これほど、ある意味では激論を交わした審議会は多くはないと思います。

区民の方には是非、16ページの「おわりに」をじっくりと読んでいただきたいと思います。16ページに最も今回の会議の様子が出ています。大多数の意見がそこに集約され、落ちついたということであって、決して全員が一致して賛成したわけではないということだけは申し上げておきたいと思えます。

委員

東京商工会議所練馬支部から参加しています。

循環型社会推進会議に参加するのは、今回で4期目になります。初期のころから参加していますが、家庭ごみの有料化についての議論は今回が初めてです。とても大きな節目だと思っています。

やはり区民の方々は、何で家庭ごみの有料化の議論が必要なのかというのがわかりません。私たち

は2か月に一回集まって、議論をしているので、意識も高まりいろいろなことがわかりますが、今後は丁寧な説明をしていき、理解を得ていくことがとても重要なのではないかと思います。

委員

私はフランチャイズチェーン協会の推薦で、今回の推進会議に出席させていただきました。

コンビニエンスストアの場合は事業系ごみなので、区とは直接やりとりはありませんが、実際にごみの処理がどのように行われ、いかに効率を上げているかというところが今回のこの推進会議の中で見えてきたというところは、自分のため、今後の我々の事業還元の中でも参考になったと思いました。

一方、家庭ごみの有料化ですが、私は三多摩に住んでいて、既にそこは有料化がされています。練馬区は、非常に深く先々のことを考えて議論をしており、私の住んでいるところはこんな議論をやったのかなと感じた次第です。

この答申は、皆さんの意見も入っておりますし、様々な議論の中で非常に参考になったというところがあり、勉強させていただきました。

委員

練馬区リサイクル事業協同組合から参加しています。

基本的にはごみから分別された資源を、私たち事業協同組合を中心に、今後は地域のコミュニティを大事にして、区内の集団回収事業の拡大に向けて協力していくことは大事なかなと思っております。

委員

東京都資源回収事業協同組合練馬支部から参加しています。

この2年間の間に、3R、発生抑制という言葉がこの会議の中ではかなり頻繁に議論の中で出ていましたが、我々業者の立場からは、発生抑制というのは消費低迷につながり、我々が扱っている品物の数量が激減するわけです。

発生抑制するのは社会的にはいいのですが、我々業者にとっては死活問題になってくる部分も決してなくはないということが、頭にずっと2年間よぎっていました。

今も消費は非常に低迷していますが、相場に左右されず、我々業者が本当に生きていけるような練馬区独自のシステムをつくっていただきたいと思っています。

委員

東京環境保全協会から参加しています。

この会議に出席させていただく度に感じるのですが、委員の方々のメンバー構成がとてもいいと思っています。学識経験者を初め、区民の方、PTAの方、商店街の方、そして、我々現業者ということで、メンバー構成のバランスが大変いい会議だと思っております。こういう形をぜひ続けていただければということが一つです。

今、東日本大震災のがれきが我々の業者のところに運ばれてきます。鉄道輸送で運ばれてきますが、そのときに少数の方々からの反対運動があります。話を聞くと間違った知識で反対してしまっていると思うことがあります。

行政が新しいことをするときには、理解を求める説明をきちんと詳しくすればわかるのです。そのところを省いて、いきなり行動に走ってしまうと、一部で反対運動が出てしまうのです。有料化のときも是非、説明をお願いしたいと思います。

私は、今、環境省の中央環境審議会の食品リサイクル委員会に、何回か出させていただいています。国は、生ごみのリサイクルではなくて、発生抑制をもう一回見直そうということを計画しております。

また、東京都環境局の「静脈物流効率化・高度化のための検討会」という専門委員会があります。そちらでは廃棄物を運ぶ車を減らそうという、効率化を今検討している最中です。

そういうことを考えますと、区・都・国が循環型社会に向かって活発に動いているということが実感です。私ども業者も含めて、皆が循環型社会に向かい、そして、共存・共栄になるように力をあわせていきたいと思っております。

指導主事

教育指導課の指導主事です。

教育の視点では、毎年、初任者の教員が百数十人いますが、初任者の研修をリサイクルセンターで行わせていただいています。区が行っている事業や、環境教育の取り組みを学ぶことができます。

今回、ごみの有料化ということもあるとは思いますが、ごみの削減、そして、環境に関する気持ちは作っていくということに関しては教育の普遍的な問題であると思いますので、今後も、有料化に伴って社会のごみに対する意識も高まってくるとは思います。未来の大人となる子どもたちのリサイクル意識、それから、循環型社会をつくる一員としての子どもたちの育成に励んでいきたいと思えます。

環境部長

皆様、ありがとうございました。

それでは、ここで志村区長からご挨拶申し上げます。

区長

皆様には平成22年7月から2年間、公私とも大変お忙しい中を練馬区循環型社会推進会議にご尽力いただき、心から厚く御礼申し上げます。

ただいま、会長から答申をいただきました。内容については、これからじっくり読ませていただきたいと思っておりますが、私は、行政におけるごみの処理の仕方、練馬区における処理の仕方、また、これがやはり一つの分岐点に来ていると思っております。

それとは別のことになりますが、マナーの悪い方々がまだまだたくさんおられるということです。私は、自分の健康のために毎日、早朝に歩いていますが、ごみの集積所がきちんと整理整頓されているところと、そうでないところと、全くそれを無視しているところと、いろいろ見ることができます。私はその度に、これは見過ごしてはいけないなというところは、所管に連絡したり、改善をお願いしたりしてまいりました。

一番ひどい例は、ネットの中に入れていないで、ネットの外に出しているのです。そうすると、すぐにカラスが来ます。それが毎週毎週、収集日には同じ風景が見られるわけです。これは非常に残念だと思っております。

また、若いサラリーマンが食べながら歩いている姿を見かけることがあります。そして、食べ終わると、それを道路に平気で捨てていく。これは本当に情けない姿だと思います。

今回の答申では、ごみの減量化や負担をしてもらおうというご意見をいただき、有料化の方向でまとめられたと伺いました。

先程、委員が申されましたように、全員が全くイコールではなかったが、最終的にはこれでまとめたのだというお話がありました。しかし、私は、そこに到達するまでの間に、もう一回、ごみに対する意識の向上、モラルの向上を図る必要があると強く考えています。

いずれにしても、負担をしてもらおうということ、これは本当に価値観の一つの分かれ目だと思っております。

ごみは必ず人間が生活している限り排出される現象です。量を減らすということは大いに努めるべきだと思っております。

14回の会議を重ね、様々な視点から活発なご意見、ご議論がなされたと聞き及んでおります。

平成22年度は、平成18年度から32年度を計画期間とする第2次練馬区一般廃棄物処理基本計画の概ね5年ごとの見直しに当たり、ご審議をいただき、「減らそうごみ つなげよう未来へ 循環型社会

を目指して」ということで、第3次練馬区一般廃棄物処理基本計画を平成23年3月に策定することができました。

平成23年度は主に諮問事項についてご審議いただき、発生抑制の取り組みの重要性、再生利用の取り組みの推進、費用負担導入の必要性、家庭ごみ有料化の手法の検討としてまとめていただきました。

なかでも、廃棄物の減量を進めるに当たっての有効な施策の一つであります、家庭ごみの有料化について、多くの議論をいただいたということでございます。まさに導入すべき時期に来ていると考えるところのご意見を賜りました。

区では、今後、答申を踏まえまして、十分な検討をしまいる所存です。検討に当たりましては、区民の皆様には十分かつ丁寧な説明をして、ご理解、ご協力を得られるよう努めてまいります。特に答申に示された導入までの課題のうち、23区での一斉実施に向けた関係機関との検討については最大限の努力をしまいたいと考えております。

私も家庭ごみの問題は非常に頭を痛めている中身でございます、家庭ごみの有料化で減量に持っていくということは一つの大きな手段でありますので、十分に検討させていただきたいと思っております。

長い期間、皆様方におかれましては、大変お忙しい中、会議にご参加いただき心から厚く御礼申し上げます。皆様からいただいた答申を大いに活かす方向で努力をしまいたいと思っておりますので、今後ともよろしくご協力賜りたいと思います。ありがとうございました。

環境部長

それでは、会長にマイクをお返しいたします。

会長

以上をもちまして、第6期第14回練馬区循環型社会推進会議を閉会いたします。

副会長、委員の皆様、それから、会議を支えていただきました事務局の皆様、どうもありがとうございました。